

八木山動物公園の繁殖に関する取り組み (2021年5月現在)

生息域外保全

- ・ スマトラトラの種別計画管理等
- ・ 精液保存および人工授精
- ・ 繁殖に向けた実績

生息域内保全

- ・ シジュウカラガン羽数回復事業
- ・ マダガスカル生物多様性保全事業



八木山動物公園の繁殖に関する取り組み

(2021年5月現在)

生息域外保全

スマトラトラの種別計画管理等

GSMP（国際種管理計画）種であるスマトラトラは、わずかにインドネシアのスマトラ島に300頭生息、世界の動物園で360頭飼育。

当園はJAZA（日本動物園水族館協会）の種別計画管理園として、日本国内における域外保全を調整・総括。

GSMP会議（2018年2月インドネシアのジャカルタ開催）や各種国際会議に参加。

2013年5月、4頭の繁殖成育に成功、国立大学との連携による妊娠判定を実施。

2018年11月、繁殖に成功した当時のペアリングに戻し、繁殖に取り組む。

2019年10月、1頭の繁殖成育に成功、国立大学との連携による妊娠判定を実施。



八木山動物公園の繁殖に関する取り組み

(2021年5月現在)

生息域外保全

精液保存および人工授精

- ①将来にわたり国内の希少動物種の配偶子を守るため、JAZAと連携し園内に配偶子バンクを設置。配偶子の凍結保存に取り組んでいる。
- ②アフリカゾウの精液保存
国立大学と連携し国内初となる人工採精が成功。精液保存の確立に取り組んでいる。
- ③ホッキョクグマの繁殖
国立大学と連携し国内2例目となる人工授精を実施。2019年12月、1頭繁殖（死産）。
- ④スマトラトラの精液保存
国立大学と連携し採精を実施。精液保存の確立に取り組んでいる。



八木山動物公園の繁殖に関する取り組み (2021年5月現在)

生息域外保全 繁殖に向けた実績



①東北3園によるアフリカゾウ繁殖の連携協力

国内のアフリカゾウが激減（約80頭→約30頭）するなか、繁殖の促進と技術研究のため東北3園で覚書を締結。

2018年9-10月、当園と秋田市大森山動物園の間で 雌ゾウを交換し、新たなペアリングにより繁殖に取り組む。

②クロサイの繁殖

IUCNレッドリストがCR（近絶滅種）。国内の飼育頭数は22頭のみ。

2019年2月、雌1頭の繁殖成育に成功。

③レッサーパンダの繁殖

IUCNレッドリストがEN（絶滅危惧種）。

2018年7月・2020年6月繁殖。その他レッサーパンダの繁殖成育実績が多数。



八木山動物公園の繁殖に関する取り組み (2021年5月現在)



生息域内保全 シジュウカラガン羽数回復事業

シジュウカラガン Aleucian Cackling Goose (*Branta hutchinsii leucopareia*)

- ・アリューシャン列島と千島列島で繁殖し北米大陸と日本列島で越冬する渡り鳥
- ・かつて仙台周辺で越冬するガン類の大半を占め歴史的、文化的に関わりが深い

20世紀前半のロシアによる繁殖地へのキツネの放養などにより生息数が激減し、
仙台周辺へもごく少数が渡来するのみとなった



1980年 「極東地域野生シジュウカラガンの羽数回復事業」に着手
1983～2010年

- ・アメリカ合衆国より種鳥を借り受け、当園で繁殖
- ・繁殖個体を越冬地および繁殖地へ放鳥
- ・繁殖地への放鳥個体とその繁殖個体の日本への飛来確認

2014年 日本国内への1,000羽以上の飛来確認

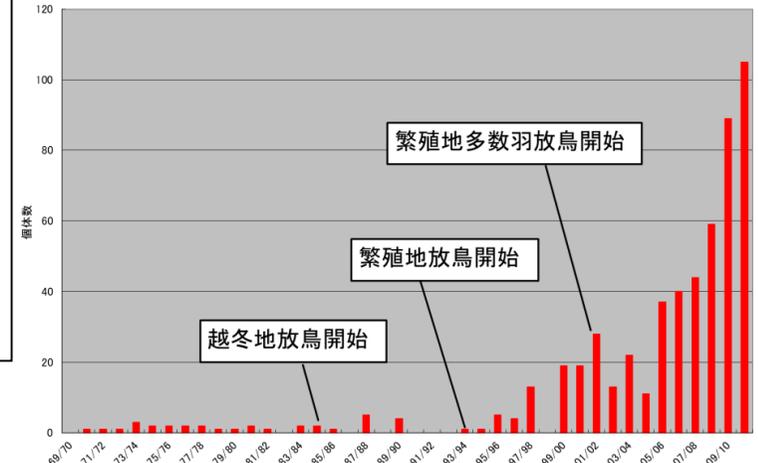
- ・野生個体群が自律的な回復基調まで行き事業終了
- ・教育普及活動に移行

- ・2018年 日本国内への飛来数5,120羽を確認
- ・2019年 IUCN Red list : LC (Least Concern 低懸念)



国内に飛来したシジュウカラガン

日本国内のシジュウカラガン飛来個体数



八木山動物公園の繁殖に関する取り組み

(2021年5月現在)



生息域内保全

マダガスカル生物多様性保全事業

- ・マダガスカル共和国はキツネザル類を中心とした世界的な生物多様性のホットスポットで固有種が多数生息しているが、近年の人口増加と自然資源の過剰利用により多くの固有種が絶滅の危機に瀕している。
- ・チンバザザ動植物公園 (Parc Botanique et Zoologique de Tsimbazaza 略称：PBZT) は同国唯一の国立の動物園。同国の生物多様性に関する社会教育・調査研究をリードする機関で、マダガスカルの希少生物の保全へ取り組んでいる。
- ・当園ではJICA (Japan International Cooperation Agency) の事業採択を受け、教育分野での専門的な研究をしている国立大学と共同で、PBZTに対し、飼育・獣医療の技術移転や教育普及分野での支援を行っている。

飼育展示・獣医療分野

- ・動物舎の清掃や繁殖手法の指導
- ・飼料の選別や管理方法の指導
- ・種毎の生態を考慮した展示、解説方法の改善指導
- ・個体群の遺伝的管理手法の指導
- ・獣医療(治療、予防、防疫)の技術指導 など

教育普及分野

- ・PBZT園内への野生動物生息環境保全啓発看板の設置指導
- ・環境教育人材育成プログラム開発の指導
- ・生息域内保全モデル地区での住民啓発活動を行う人材の育成 など

近隣動物園との連携

- ・PBZTと近隣動物園の連携組織の発足に向けた指導
- ・連携組織での技術交流、教育普及活動、動物移動に係る指導 など



マイクロチップリーダーを使った個体識別の指導



獣医と飼育員に駆虫薬投与法の指導



動物展示看板作成の指導